（様式１－１）

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立上内学校（ＮＯ．１）

学校教育目標	ふるさとに誇りをもち、心豊かでたくましく　未来を拓く上内っ子の育成	重点目標	進んで自分の思いや考えを伝え、高め合い、粘り強く行動できる子どもの育成

	評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント		次年度における改善策（案）
重点目標に関する評価	○学力の向上 【大牟田市学力調査】 ・国語科、算数科→全国平均CD層の減少	○個別最適な学習に資する手だてが位置づけられた授業の実施 ・自分の思いや考えを図や言葉を使って整理して書く解決タイムの設定	○授業への意識【学習への構え】についてのふりかえりカード（児童評価4.0P中3.2P以上） （教師評価4.0P中3.2P以上）	4	○全校で「上内っ子学びの７ヶ条」を重点的に共通実践しているため、児童には学習の構えが身に付いている。	A	・自己評価は適切である。 ・授業のテンポがとてもよく、児童が集中して学習している。 ・低学年がタブレットを上手に使いこなしていたので感心した。 ・一人一人が考えを発表できている。 ・お互いに学び合う姿が素晴らしい。 ・相手の考えを聴いたり、自分の意見をしっかり伝えるのは今後の社会生活においても大切。このまま伸ばしてほしい。 ・基礎学力の積み上げが出来ている。 ・生き生きと、そして安心して学びに向かえているのがよく分かる。		・口頭で考えを交流する際は、簡潔、明瞭さを目指し、また、図と合わせて話せるように手だてを考案していく。 ・考えの発表だけで完結させないために、当面は教師が発表した児童に質問して児童の参考にしていく。 ・自学のテーマを子どもだけに任せると難しいため、自学名人コーナーに展示している作品を基にテーマや内容を各学級で紹介していく。 ・タブレットを活用して考えを共有する際は、目的・内容・方法を明確にしていく。また、家庭学習では、量の単位を探して写真で提出したり、宝物を紹介する動画を提出したりするなど工夫していく。
		○協働的な学習に資する手だてがある授業の実施 ・共通点や相違点を比較する出し合いタイムの設定 ・相手の思いや考えを聴いて、質問・感想	○授業への意識【一斉、グループ、ペアでの考えの交流】についてのふりかえりカード（児童評価3.2P以上）（教師評価3.2P以上）	4	○考えを交流する場面では、互いの考えをよく聞くだけでなく、質問、付け加え等ができるようになってきた。	A			
		○基礎学力の定着を図る取組の実施 ・上内っ子タイム（音読・計算・言語） ・漢字・計算検定（言語・文章題） ・ICTの活用、少人数学習 ・家庭学習内容の改善	○漢字・計算検定合格率80％以上 ○課題図書達成80％以上 ○ICTを活用した学習（全学年達成） ○自学の取組（児童評価3.2P以上） （教師評価3.2P以上）	4	○漢字検定、計算検定ではほぼ全児童が合格した。 ○どの学年も発達段階に応じた本に親しんだ。 ○全学年でタブレットを授業および家庭学習で積極的に活用した。個別最適な学習および協働的な学習に有効であった。 △自学では内容のレベルアップが課題である。	A			
	○自尊感情と思いやりの心の向上 【生活ｱﾝｹｰﾄ】 ２項目全て８０％以上 ・自己概念 ・友だちとの関係	○道徳と学級活動や学校行事で行う体験活動との関連を図る指導 ・自己の振り返りと望ましい行動への意欲付け・キャリアパスポートの取組	○自己概念のポイント（1.5P中1.0P以上） ○道徳の時間の指導（教師評価3P以上）	4	○自己概念は、下学年で目標を上回った。係活動や朝の会、帰りの会の自発的な活動の推進が効果的であった。 △上学年での自己評価は目標をわずかに下回った。高める手だてが必要である。 ○道徳の時間の指導については目標を上回った。多くの行事と道徳の時間との関連を図った指導が有効であった。	A	・自己評価は適切である。 ・いつも気持ちよく挨拶できている。 ・少人数でも掃除を頑張っている。 ・米作りやしめ縄作りなど自然と触れ合う機会が自他のよさに気づくことにつながっている。 ・少人数であるからこそ行事で一人一人が役割をもって楽しく活動できている。 ・～名人の取組により、頑張れば評価される意識が生まれ、自己肯定感が高まっている。		・６年生だけでなく、上学年である４、５年生が児童会活動に関わり、自発的・自治的に運営できるようにすることで自己概念を高めていく。 ・行事を初めとするさまざまな体験と道徳科との関連を図る取組を継続する。その際、特に振り返りを重視して、自身の伸びを自覚できるようにする。 ・挨拶名人の達成率については各学年での目標設定と定期的な振り返りを位置付けていく。
		○基本的な生活習慣の育成 ・あいさつ運動の推進（自分から挨拶） ・スリッパ並べの徹底 ・高学年リーダーを中心とした掃除	○児童の挨拶・トイレのスリッパ並べの意識向上（教師評価3P以上） ○挨拶名人（教師が選出した児童80％以上） ○掃除名人（教師評価3.2P以上）	3	△挨拶名人は目標に達しなかったが、名人になった児童はその後も達人、マスター、チャンピオンになった。 ○縦割り掃除の取組が有効であった。	A			
		○自他のよさを認め合う活動の実施 ・メルシーアーチ（友だちのよいところ見つけ・年２回）	○自他のよさを見つける意識 （児童評価3P以上） ○自分の気持ちを伝える （児童評価3P以上） ○言葉遣いへの意識（児童評価3P以上）	4	○児童は自他のよさを認め合い、互いを尊重して生活できた。帰りの会での発表が形骸化せずに継続できた。 ○言葉遣いについても学級活動での話し合いとその後の継続が図られた。	A			
	○体力の向上 【縄跳び・一輪車検定】 子ども大牟田体力検定「達人」ランク以上85％以上	○体育科の学習で運動量を60％確保する。 ・毎時間の体育の授業での実施	○体育の授業への意識 （児童評価3P以上）（教師評価3P以上）	4	○指示・説明の短縮化とタブレットによる動きの自己評価により運動量が確保できた。	A	・自己評価は適切である。 ・低学年のダンスでタブレットを活用していることがよかった。 ・スポコン広場での活躍は大変喜ばしい。先生たちの努力に感謝したい。 ・毎日Mボードを見ていて、体力向上に向けた取組に感心している。 ・運動場で子どもと先生がいつも元気に遊んでいるため体力がついている。		・運動量をさらに確保するために、タブレットを効果的に活用していく。 ・スポコン広場、なわとび検定、一輪車検定を継続することで、児童の運動に対する関心と運動能力の向上を図っていく。
		○外遊びの奨励と体力アップタイムの実施 ・毎週１回体力アップタイム ・スポコン広場の取組（他校との競争） ・体力向上に関する検定の実施（縄跳び・一輪車）	○運動・外遊びの意識（児童評価3P以上） ○スポコン広場へ登録（全学年登録） ○チャレンジカード実施率（100％）	4	○児童は毎日職員とともに外に出て遊んだ。 ○スポコン広場に向けて児童と職員が一丸となって目標をもち、練習に励んだ。３～６年生は大なわとび南筑後大会で１～３位に入賞を果たした。チャレンジカードも100％実施できた。	A			
		○持久力、平衡感覚等を高める検定の実施 ・縄跳び（短縄、長縄）検定 ・一輪車検定	○個人、集団の目標達成率（80％以上）	4		A			
いじめ防止	いじめのない学校づくり 個性を認め合い、お互いを大切にする子	○生活アンケート、教師チェックリストの実施（月に１回）	○学校生活アンケート （友だち関係に係る満足度1.5P中1.2P以上）	4	○どの学年も友達と仲良く学校生活を送った。 ○毎月の児童理解会議により児童一人一人の課題を共有し、方向性を話し合った。 ○全職員が児童を注意深く観察し、必要に応じて管理職とともに指導およびケアを講じた。	A	・自己評価は適切である。 ・みんなとても優しく友達をほめることが上手である。 ・子どもと教員が接する機会が多く学年を超えた指導と見守りが出来ている。 ・実態を把握して確実に対応されている。		・児童、担任、家庭へのアンケートおよび教育相談を徹底し、いじめの早期発見と早期対応に努めていく。 ・SCおよびSSWが児童理解会議に参加する機会を増やし、助言をいただくことで、児童がお互いを大切にする校風を継続していく。
		○アンケートを生かした教育相談の実施（毎回）	○いじめの実態把握（児童理解） （教師評価3.5P以上）	4		A			
		○職員研修（学期に１回）、いじめ防止対策委員会（年３回以上）の実施	○認知したいじめの解消（100％）	4		A			
不登校防止	不登校を出さない学校	○登校意欲の向上 ・わかる授業の実施 （毎週計画案提出による量的、質的管理） ・学習空白に対する取組（個別学習等）	○登校意欲 （学校生活アンケート1.5P中1.0P以上） ○学習意欲 （学校生活アンケート1.5P中1.0P以上）	4	○特別支援教育支援員や学習指導員との連携、タブレットの活用により、分かる授業を推進できた。 ○アクション３を確実に実行した。また、定期的な家庭訪問やSC、SSW、教育相談室等とも連携を図り、個に応じた対応を推進した。	A	・自己評価は適切である。 ・不登校児童への個別対応が効果的だと思う。 ・SC、SSW、家庭との連携がよくできている。 ・家庭訪問により、不登校の児童が担任の先生と会話できている。		・児童の登校意欲を高めるために、教師と児童との関係を深める関わり方についての研修を位置付けていく。 ・家庭、地域、専門機関と連携し、児童の居場所づくりに取り組んでいく。
		○不登校児童への組織的な取組 ・福岡県不登校児童生徒支援グランドデザインに基づいたアクション３の実施 ・SC、SSW等との連携	○不登校児童の学校出席日数（10日以上）	4		A			
働き方改革	教職員の適正な勤務と意欲の向上	○週案作成による計画的な業務遂行の徹底（毎週作成） ・交流授業や近接学年との授業の実施	○教師の意識向上（3P以上）	4	○職員が定時退勤を念頭にタイムマネジメントを心がけて勤務できたため、目標をほぼ達成できた。 ○職員は週案を確実に作成・提出できた。 ○３ヶ月分のカレンダーを職員室内に掲示して主な行事を記入したため、先を見据えた取組が継続できた。 ○友好的な職員関係により、協働体制が推進できた。	A	・自己評価は適切である。 ・時間を上手に使う意識が素晴らしい。 ・先生方同士の協力体制があるからこそ超過勤務が少ないのだと思う。 ・効率よく仕事が進められているので、維持していただきたい。		・近接学年での交換授業を推進していく。 ・行事については、児童の実態に即した目的、内容、方法の見直しを今後も図っていく。
		○超過勤務者の把握と改善	○昨年度比超過勤務時間10％減	4					
		○行事等の見直しによる協働体制の推進（学期に１回見直し） ・学級事務の時間の確保、定時退校日の設定（金曜日）、電話対応時刻の設定　等	○働き方改革に関する見直し （教師の意識3P以上）	4					

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである